地域からはじめよう!

環境出前講座を開催しませんか？

「温暖化について詳しく知りたい」「家庭でも取り組める活動を紹介してほしい」といったご要望がございましたら、各地域の推進員に出前講座の開催を依頼することができます。楽しい教材に子供たちも大喜び！みなさんも環境講座を開いてみませんか？

無 料

主婦向け　家庭でできる省エネ講座

エアコンやテレビ、冷蔵庫など、講座を受けてすぐに実践できる省エネ講座。家計の節約にもなりますよ。

▲イベントに出展の様子

子ども向け　環境学習講座でエコまなぼ

ちょっぴり難しい省エネも、ゲームを通して楽しく学べます。
省エネは子どもたちから率先してする時代へ。

工作編　-大人も子どもも楽しめる-　エコバッグづくり

新聞紙を再利用して、エコバッグを作る講座。
新聞紙がオシャレなエコバッグに変身しま～す！

▲新聞エコバッグ

その他にも、様々なテーマに対応した講座が実施可能。

<<出前講座開催までの流れ>>

1　出前講座開催の申し込み

センターのホームページ(http://nccca.jp)より申込用紙がダウンロードできます。
実施予定日の1か月前までに申込書をセンターへ提出してください。

2　センターから各推進員へ連絡･日程調整

学習の時間 ／ 原則午前10時～午後5時までの間90分以内
講　師　料 ／ 無料(講座に必要な材料等を用意していただく場合がございます。)
※曜日、時間等はご相談ください。なお、諸事情によりご希望に添えない場合がございますが、あらかじめご了承ください。

3　出前講座受付確定･実施

出前講座申込者へセンターから実施確定の連絡があり、当日推進員が伺います。

開催条件

※開催場所は県内に限ります！
※5人以上から開催可能です！

お問い合わせ
nccca 長崎県地球温暖化防止活動推進センター
住所：長崎市元船町17-1　公益財団法人ながさき地域政策研究所 内
TEL:095-820-4868　FAX:020-4623-5633　http://nccca.jp

エコnaga+
発行月 / 平成 26 年 10 月 編集 / 長崎県地球温暖化防止活動推進センター　発行 / 長崎県未来環境推進課
〒850-8570 長崎市江戸町 2-13 TEL / 095-895-2512 FAX / 095-895-2566

オシャレなあなたは始めてる

エコnaga+（プラス）

地球温暖化防止活動推進員（県北地区・長崎地区）の活動
未来型ドライブ観光システム「EV&ITS(エビッツ)」ってなぁに?
壱岐と対馬のエコ特集
10 年目を迎えた若者たちのエコ活動！
長崎県からのお知らせ

第25号
2014.10

エコnaga＋（プラス）

オシャレなあなたは始めてる

第25号
2014.10

発行月／平成 26 年 10 月
編　集／長崎県地球温暖化防止活動推進センター
http://nccca.jp

発　行／長崎県未来環境推進課
〒850-8570 長崎市江戸町 2-13
TEL ／ 095-895-2512
FAX ／ 095-895-2566

「エコ naga＋」とは…

「エコnaga＋」は「長崎県地球温暖化防止活動推進センター」が制作している環境冊子です。長崎県未来環境推進課より発行され、県民の環境への意識を啓発するための内容となっています。環境の最新情報や環境コラム、また県内企業や個人、団体の環境の取り組みなども紹介し、楽しく読める盛りだくさんの内容となっています。発行：4回／年
配布先：各行政機関等（当センターへお尋ねください）

長崎県地球温暖化防止活動推進センターとは…

「地球温暖化防止活動推進センター」は、各都道府県に設置されており、長崎県の当センターもその中のひとつです。地球温暖化防止活動に関する「啓発・広報活動」、「活動支援」、「調査」などを行っており、その一環として、「エコnaga＋」で情報を発信しています。
※本誌内では、〈センター〉と表記

長崎県地球温暖化防止活動推進員とは…

「長崎県地球温暖化防止活動推進員」とは、地球温暖化防止のために自ら省エネルギー、省資源に取り組むとともに、地域住民の方々へ温暖化に関する情報の提供と温暖化防止活動の普及を進めてくださる方々です。県から委嘱を受け２年間の任期で推進活動を実施します。
※本誌内では、〈推進員〉と表記

CONTENTS
目　次

01. 「エコまなぼっ！」各地実施ご紹介 県北地区・長崎地区
02. 長崎県エコ最前線 再生可能エネルギー取組
04. 若者がつないだエコ活動 長崎打ち水大作戦１０周年
06. 日本のガラパゴス？？ 環境王国対馬
08. 循環型の島づくりを目指す 古代ロマン壱岐の島
10. 長崎県EV&ITSプロジェクト 体験レポート
12. 長崎県からのお知らせ

撮影協力 / 株式会社　石原和幸デザイン研究所
多肉植物がお好きだという松尾由理さん。
株式会社石原和幸デザイン研究所九州支店内で撮影させて頂きました。（表紙・表紙裏写真）

楽しみながら、エコが学べる「エコまなぼっ!」各地実施ご紹介

センターでは、各地で地球温暖化に関する出前講座を実施しています。今回ご紹介するのは、県北地区と長崎地区で実施された講座の模様です。

また一般の方向けには、今すぐ実践できる「出前・節電講座」の開催場所を募集しています。自治会や婦人会、学校での土曜日親子授業などに、センタースタッフや推進員がお邪魔します。センターの教材「家庭の省エネ節電ハンドブック」を使って分かりやすくお話しします。参加費用は無料！
受講者には、九州各店で使える「九州エコライフポイント」をプレゼント！（数に限りがあります。）　詳細は裏表紙をご覧ください。

7月28日実施 県北地区 田平町民センター

このゴミはこの袋かな？実際に入れてみました

平戸市の田平町民センターで約30名の学童の子供たちを対象に、環境出前講座が開催されました。内容は、地球温暖化のしくみの学習と、ゲームを使ってごみ分別を学ぶことです。子供たちには、実際にペットボトルや食品包装等のごみ分別をゲーム形式で実践してもらい、自分たちの地区のごみ分けを学ぶことが出来ました。また、グループごとにセンターの教材「ゴミカルテ」を使ってゲーム感覚で楽しくごみの種類について学びました。終了時には、今日勉強したことについて「環境標語」を作り、皆の前で発表を行いました。

8月2日実施 長崎地区 長崎歴史文化博物館

中はこんな感じ！
※200年前の照明の様子を再現しているそうです。

長崎歴史文化博物館で行われた奉行所夏祭りの来場者を対象に、長崎地区推進員一丸で得意の「寸劇」とエコハウス体験・新聞紙エコバッグ作り等を行いました。エコハウスには中をのぞいてみたいと、興味津々な子供たちがたくさん集まり、200年前の照明の様子を体験。また夏休みの工作にも使える新聞紙エコバッグコーナーにも多くの子供たちが集まり、新聞紙でバッグが作れる!と驚きながらも楽しんでエコバッグを作っていました。

長崎県エコ最前線
再生可能エネルギー取組

平成 17 年2月に発効した「京都議定書」などにより、長崎県も再生可能エネルギーの導入促進については、これまで様々な対策が進められてきました。また、平成 23 年3月 11 日の東日本大震災以降、再生可能エネルギーがさらに注目され導入が促進されています。

長崎県では、平成24年度に下記の**6つのプロジェクト**からなる「ナガサキ・グリーンニューディール戦略プロジェクト」を策定し、本県の特性や県内技術を生かした環境・エネルギー分野での先進的なモデル創出や実証フィールドの誘致・形成などに取組んでいます。

(1)対馬プロジェクト
(2)西海プロジェクト
(3)五島プロジェクト
(4)海洋フロンティアプロジェクト
(5)海外展開支援プロジェクト
(6)長崎未来型エネルギー自給自足団地プロジェクト

これは環境に配慮しながら、地域特性に応じ、再生可能エネルギーの種別ごとに導入促進の方向性を示し、市町や地元企業等と方向性を共有しながら、地域力を結集することで、再生可能エネルギーの導入へ繋げていくことを目的としています。
その一つでもある風力発電は、長崎県にとっては大変可能性のあるエネルギーの一つです。
現在設置基数については79基(2011年度末、NEDO調べ)で**全国第7位**にあり、九州では鹿児島県に次いで**第2位**。島嶼部及び沿岸部での設置が多く、特に県北地域には大規模なウインドファームも立地しています。
また、風力発電については、他の再生可能エネルギーに比べ、大容量で発電コストも安く導入効果が高いこともその特徴の一つ。本県は、地元の方々の理解と協力を得ながら、島嶼部及び沿岸部などを中心に風況の良い地域に発電事業者の立地を進めるとともに、そのために必要となる送電網の強化などのインフラ整備を国や電力会社の協力のもと進めています。

出典 / 長崎県再生可能エネルギー導入促進ビジョン

再生可能エネルギーとは

再生可能エネルギーとは、「エネルギー源として永続的に利用することができると認められるもの」として、**太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱**、大気中の熱その他の自然界に存する熱、**バイオマス**が規定されています。再生可能エネルギーは、資源が枯渇せず繰り返し使え、発電時や熱利用時に地球温暖化の原因となる二酸化炭素をほとんど排出しない優れたエネルギーです。長崎県も地域の特性を踏まえて様々な再生可能エネルギーの活用に努めています。

長崎県再生可能エネルギーに会いに行こう!

再生可能エネルギー推進 平戸大会

第17回 全国風サミット in 平戸

テーマ 『地方から世界へ! そして未来へつなげる再生可能エネルギー』

目 的

世界規模で急速に広がる地球温暖化や原油価格の高騰、化石燃料資源の枯渇などの環境問題は、私たちが最優先的に取り組む重要課題である。地球環境に優しいクリーンなエネルギーとして、再生可能エネルギーはますます注目されている。
平戸市では現在、25基の風車と4箇所の大規模太陽光発電所が稼動している。また、良好な風況環境等を有しており、再生可能エネルギー事業のポテンシャルが高い地域である。
このようなことから、地球環境の保全と低炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーの重要性やエネルギー需給構造の再構築を目指し、再生可能エネルギーの更なる普及・啓発に向けた取り組みとして標記大会を開催する。

開催概要

開催日時 **平成26年 10月28日(火)~29日(水)**

開催場所 **平戸市生月町開発総合センター**
平戸市生月町里免 1610 番地

問い合せ **再生可能エネルギー推進平戸大会実行委員会**
事務局:平戸市産業振興部商工物産課 TEL 0950-22-4111(代) 内線2213

入場無料
当日参加OK

2014 長崎打ち水大作戦

若者がつないだエコ活動 長崎打ち水大作戦 10周年

長崎の学生による環境イベント「長崎打ち水大作戦」

誰でもカンタンにできる打ち水という環境活動を通じて、地域でのコミュニケーションや繋がりを目的として始まった「長崎打ち水大作戦」。長崎の学生が結成した環境コミュニケーショングループ「長崎ラピッシュネット」によって実施され、今年で10周年を迎えました。長崎ラピッシュネットは学生が主体のため、毎年メンバーの入れ替わりがあり、実行委員会形式で運営されています。2014年の総括は長崎総合科学大学の金城和希さん。金城さんは「この打ち水を通じて、楽しみながらエコを考えるキッカケを提供すると共に、学生たちも自分自身が、成長するキッカケとして良い活動にしたい。」と話してくれました。

打ち水大作戦では、イベントの企画・運営・管理を経験して、実践的に社会の仕組みや仕事に対する姿勢を学びます。自ら考え行動する長崎の若者育成をマチぐるみで応援することも大きなテーマとなっているそうです。

今年のプレイベントでの打ち水は、悪天候のため残念ながら実施回数が少ない結果となりましたが、実施できた長崎市中通商店街では、近くの学童の子ども達や商店街の方々も一緒に打ち水を楽しみ、エコについて考えるキッカケとなったようです。

長崎県美術館で行われたメインイベントでは、田上長崎市長が登場。トークセッションのテーマを「キッカケ」としてお話を伺いました。学生総括の金城さんは、このイベントに参加したキッカケについて「社会活動への参加、というのは実は表向きで、いろんな人、特に女性と出会いたかったというのが本音です(笑)。」と、明るく話します。これに対し市長からは、「そういう動機でもいいと思う。まずは、取組に楽しく参加するということが大切。」と、肯定的で温かい言葉をいただきました。他のメンバーからは、「もっとコミュニケーションが取れるように、きちんと人と話せるようになりたい。」という真面目な動機もあり、これに対して市長は「素晴らしいことだと思う。そういう若者が増えてくれることが、長崎のまちづくりにもつながるし、元気なまちをつくることになる。」と学生たちにはとても励みになるコメントをおっしゃっていました。

▲事務局会議風景
メンバーで事前準備やスケジュール管理を行ってきました。

▲市長と学生のトークセッション。
テーマは「キッカケ」

▲この活動の模様は、ラピッシュネットの活動冊子「あってみな」に掲載され、行政機関や学校といった公共施設へ、設置・配布予定です。

▲ご当地アイドル
「ミルクセーキ」も一緒に打ち水

させぼエコプラザのみなさん

▲究極のクールビズ「鳥刺し」

地産地唱
「ペペンコピッチオーケストラ」

旅行中のフランス人
青年も一緒に打ち水▼

平和町商店街は、今年初めての打ち水参加▼

対馬半井桃水館打ち水▼

長原・速魚川
猪原金物店さんは
レトロでオシャレに▼

シリーズ
市町に取材
-対馬市編-

日本のガラパゴス??
環境王国 対馬

日本本土には生息していない、ツシマヤマネコをはじめ、アキマドボタルやツシマウラボシシジミ、ヒトツバタゴ等々、独自の生態系が育まれている自然豊かな対馬。その独特な生態系を守るため、協力して、豊かな人間の暮らしと自然環境の共生を目指す人々がいました!

未来の環境計画をつくりました!

「対馬市環境基本計画」とは…
10年後の目標とする環境の姿を具体的に描き、市民、事業者、行政等がそれぞれの立場で関わりを持ち、豊かな環境を次世代の子供達へ引き継いでいくための取組を進めていくことを目的として作られた計画です。

対馬市役所の皆さんにお聞きしました!

環境政策課
浦瀬俊美さん

環境政策課
勝見一成課長補佐

農林しいたけ課
梅野加寿人さん

対馬で取り組まれている環境政策や活動を誰にでもわかりやすく紹介している冊子です。対馬の独特な自然環境保全のためだけでなく、島民が豊かな暮らしを営むという目的を共有し、全職員が一つになって作り上げた一冊。島内の小学4年生以上に配布できるほど、挿絵も多く、10年後の対馬の環境をイメージしやすい中身になっています。

対馬のエネルギー事情

島内の防犯灯は、平成24年度に全てLED化されました。一部のトンネル内の電灯もLEDを導入し、省エネ化を進めています。また現在、市役所では店舗や事務所などのLED化や薪ストーブの設置に対する補助金制度もあるので、事業者の皆さんにはぜひ活用していただきたいです。
国の補助制度は終了しましたが住宅用太陽光についても、市独自の補助金制度を続けています。

未来創造・交通政策課
久壽米木大五郎さん

資源循環型社会のために…

一日4tの生ごみを処理できる生ごみたい肥化施設を、平成27年3月の完成を目指して美津島町に建設中。対馬市では基本的に資源循環型社会の考え方があるため、生ごみから作られたたい肥を肥料としてできた農産物を、給食センターや市の施設で活用するしくみを作っていこうと計画中。生ごみの回収世帯を増やすために、今後は地域の方々に理解していただけるよう広報に力を入れていきたいと話しておられました。

対馬のシンボル ツシマヤマネコを守りたい!

ツシマヤマネコが暮らせる環境になることが、対馬全体の生態系が整っていると考えています。舟志地区では、使われていない社有林を区画分けし、地形の特徴に適した活用方法を考える「森づくりの活動」が行われました。平成19年度から地道に活動を続けてきたこと、また行政・企業・市民・ボランティア団体がそれぞれの強みを生かして協力してきたことが評価され、平成26年度の「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受賞することができました。

市民協働・自然共生課
神宮周作さん

シカ、イノシシを有効に!

▲市の職員さんも使用している
シカ皮・イノシシ皮で作られた名刺入れ・名札ケース

農林しいたけ課
舎利倉政司さん

対馬の山に住むイノシシやシカは、畑の作物を食べてしまい、害獣となっています。やむを得ず9割を駆除するという方法を取っていますが、その大切な命を有効活用したいという思いから、その革や肉を使って料理やレザー製品が生まれました。今後は、島内に今年6月に完成した加工施設を活用し、有害鳥獣の問題を皆さんにも知ってもらうきっかけとして、レザー製品の制作体験を行っていきたいです。

環境省　対馬自然保護官事務所厳原事務室

ツシマヤマネコを守ることは、ツシマヤマネコの住む環境を守ること。

獣医師でもある自然保護官の吉田裕司さんに、対馬の人たちと昔から関わりの深いツシマヤマネコや、対馬の自然環境についてお話を伺いました。

環境省
対馬自然保護官事務所厳原事務室
自然保護官　吉田裕司さん

対馬全島で数が減っていると言われるツシマヤマネコを守るために対馬に赴任している自然保護官です。自然保護官は国立公園の管理や活用、野生生物の保護のため、全国約200か所に配置されています。対馬の生物多様性に関わることや自然環境だけではなく、漂着ごみ問題などにも関わっています。また、普及啓発のため、小・中学校や高校に向けて、ツシマヤマネコを題材にした環境教育も行っています。

厳原町鮎もどし自然公園内に、ツシマヤマネコの野生復帰を目的とした野生順化訓練施設を建設中!
※「野生順化訓練」とは…野生に返すために必要な能力を獲得させること。

ツシマヤマネコの問題を、まずは島の人に知ってもらうことが重要だと考える吉田さん。そのための一つの取組として、長崎県立対馬高校の高校生と一緒に、ツシマヤマネコの紙芝居を制作したそうです。紙芝居を作る過程で、高校生自身がツシマヤマネコについて、もっと学んで欲しいと考えているそうです。「ツシマヤマネコを守るのは行政だけではなく、地元の人たちと協力しなければなりません。これからも全力投球で、地元の人たちにもその大切さを伝えていきたいです。」と熱く語っていました。

シリーズ
市町に取材
-新上五島町編-

ツバサが行く

長崎県EV&ITSプロジェクト 体験レポート！

EV（**E**lectric **V**ehicle）とは電気をエネルギーとして走る自動車のことをいいます。1回の充電で、100キロメートル程度走ることが可能。しかも、静かで走りやすい乗り物です。また、ITS（**I**ntelligent **T**ransport **S**ystems）は高度道路交通システムといい、人と道路と車両とを一体のシステムとして構築する道路交通システムの総称。パソコンやスマートフォンで登録した事前情報をカーナビと連動させ、おすすめのドライブコース、観光スポットや充電スポット等を表示することもできます。

そんな先進的な EV&ITS の取組を新上五島町で行っていると聞き、興味津々で取材してきました！

いざ出発！

事前に EV を電話で予約し、新上五島町へ出発。長崎から高速船で1時間40分、新上五島町に到着しました。さっそく受付を行い、五島産業汽船の田端さんから EV を利用する上での操作方法・注意事項の説明を受けます。「EV は6か月に一度整備をしているので、安心して乗ることができます。ただし、バッテリー上がりには注意してください。」

確認を終え、さっそくスタートすると、とっても静か！電気自動車はモーターで動くため、静かすぎて通行人に気づかれないという危険性があり、最新型の EV では、低速時にはわざと音を発生させているそうです。

五島産業汽船　田端さん

旧鯛ノ浦教会へ向かう

鯛ノ浦港から、最初に旧鯛ノ浦教会へと向かいます。旧鯛ノ浦教会の登り口は傾斜の急な登り坂でしたが、パワー不足を感じることなく、スムースに登りきることができました。敷地内に駐車し、教会堂内を見学しました。旧鯛ノ浦教会は 1903 年に建造されたとても美しい教会です。1949 年に増改築が行われ、教会正面の鐘塔は、原爆で崩壊した浦上天主堂の被爆レンガが使われており、現在、資料館や教会学校として利用されているそうです。新上五島町の教会群には、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産となっている教会もあり、平成 28 年度の世界遺産登録を目指しているそうです。

エコ軍師川添氏に訊く

次に、EV&ITSの取材の為、新上五島町役場へ向かいます。役場正面の入口を通過すると、カーナビゲーションの音がなり、場所と充電スポットの案内を知らせてくれました。車を置いて、新上五島町総合政策課の川添有祐さんを訪ねました。

川添さんは新上五島町に EV&ITS が導入された平成21年度から事業に携わる、EV&ITS の専門家です。

そもそも EV&ITS を新上五島町に導入することとなったきっかけは、県が、五島市と新上五島町を合わせた五島地域を地球環境にやさしいエコアイランドとして、地域活性化や、教会群の世界遺産登録の推進をすることを目標としたためだといいます。

EV&ITS を普及させる中では、日本初の取組ということもあり、過去に設置事例がなく、車の操作説明や急速充電器の工事など、分からないことだらけ。手探り状態で、大変苦労されたそうです。それでも、EV&ITS を普及させる魅力は大きくあったと川添さんはいいます。

観光情報と充電器の位置を搭載したカーナビによって、初めて島を訪れた人にも、楽しみながら簡単に島の良さを知ってもらうきっかけになると感じたからだそうです。

新上五島町役場　川添さん

事業に携わった皆さんの努力と熱意が実って、2010 年7月には、EV が導入されたことを記念した、EV100 台によるパレードが五島市で行われ、ギネス記録としても認定されました。

長崎 EV&ITS 事業により、五島全体で EV が 138 台、急速充電器が 14 箇所、普通充電器が 20箇所設置されました。急速充電器は30分で約8割の充電を可能にし、普通充電器は8時間で10割の充電が可能になります。

他の行政団体からもインフラの視察がくるほどで、注目を浴びていると言えるでしょう。

「長崎 EV&ITS 事業自体は平成25年度をもって終了しましたが、EV&ITS を利用して、これからも島の発展に繋げていきたいです」と川添さんはこれからの意気込みについて、熱く語られました。

充電をしながら五島うどんを食べる

最後に、五島うどんの里で EV の充電をしながら、美味しい手延べうどんをいただきました。産地直売を行う五島うどんの里では、五島うどんの製造工程の見学や製造体験を行うことができるそうです。

帰着時の総走行距離は 29 キロ、余裕たっぷりで戻ることができました。レンタカー利用の場合は、ガソリン満タンでの返却というのが常ですが、EV はこの満タン返却の行為もなく簡単に返却することができます。皆さんも上五島へ旅行される際は、ぜひ EV&ITS を体験してみてください 。取材は、長崎県地球温暖化防止活動推進センター新人スタッフ中村ツバサでした。

シリーズ
市町に取材
-壱岐市編-

循環型の島づくりを目指す
古代ロマン壱岐の島

島のどのポイントからも空港まで車でほぼ 20 分～30 分圏内という、コンパクトアイランド壱岐の島は、古代の香りが残る神秘的な島。今回は、壱岐市環境衛生課の職員の方と一緒に島内の施設を見学し、素敵な活動をされている壱岐の NPO 法人を取材しました。

リサイクル率、県内第一位!

「循環型の島づくり」を目標に掲げている壱岐市。芦辺町にある壱岐市クリーンセンターでは、燃やした後の焼却灰はすべてリサイクルに出し、大分でセメントに原料化しているそうです。環境衛生課の高下課長は、「これまでバラバラだったごみの分別方法が、市町合併によって、統一されたため、全体の回収効率も良くなり、住民からの苦情も少なくなりました。」と話します。また、平成 23 年度に完成した液肥処理再生センターでは、回収した事業系の生ごみとし尿を併せて、たい肥を作ってます。これを地域の農家さんが使えるように、1 袋 50 円で販売を行い、今では人気商品となって、お一人様 20 袋までという制限が付くほどです。また壱岐市は、古紙回収も行っており、なんと、リサイクル率は 38.2% という、県内市町中第 1 位（平成 24 年度）の成績を誇っています。高下課長は、「これからも循環型の壱岐の島を目指し、市民の皆さんと一緒に環境の島づくりに取組んでいきたい。」と話されました。

壱岐市役所の中では、電気を使いすぎないように、あちこちに節電を呼びかけるシールを貼ったり、生ごみ回収に協力するため、家庭の生ごみを持ち込んだりなど、職員さんたちも色々な工夫をしています。

壱岐市役所 環境衛生課
高下正和課長

立場川道代さん

保健環境部
壱岐市クリーンセンター長
小林辰博さん

島内のごみ焼却施設

壱岐市クリーンセンター（芦辺町住吉）

旧芦辺町の焼却施設があった場所に設置。現在は壱岐市内のすべてのごみが集められています。地元 NPO 法人とコラボして、家庭から出る野菜くず等の生ごみをたい肥に変える、段ボールコンポストの講習会なども行っています。

芦辺風力発電所（左・芦辺町）
壱岐ソーラーパーク（下・芦辺町）

全長 75 メートルもの大きな風力発電装置を 2 基用いて、約 900 世帯分の電気を発電し、九州電力に売電しています。また、「株式会社なかはら」では平成 25 年度から太陽光発電も設置・稼動しており、これから更にクリーンエネルギーの広がりが期待されます。

NPO法人　一支國（いきこく）研究会の取組紹介

壱岐の文化や歴史でお客様をおもてなし

▲「原の辻ガイダンス」全景

一支國研究会は、壱岐の文化や歴史を研究し、島外・島内の方をお迎えするため、設置された NPO 法人です。活動場所は「原の辻ガイダンス」。その昔、王都一支國が存在したとされる場所に建てられた、一支國の歴史を学ぶための施設です。古代の道具の展示の他、年間を通してまが玉づくり、古代米づくり農業体験、壱岐神楽などの体験ができる施設となっています。壱岐の様々な特産品も販売しています。

NPO 法人　一支國研究会
理事長　鵜瀬守さん

長崎県地球温暖化防止活動推進員としても活動しています。温暖化防止に関わるイベントや島内の花いっぱい運動、漂着ごみ問題にも積極的に関わっています。これからの時代を担う子どもたちに、美しい壱岐を残すため、地域の皆さんと一緒に活動しています。

館内のリアルな神楽人形に▲
ちょっとビックリ!

取材当日は、一支國研究会のスタッフによる「黒米」と「緑米」を使った「焼き餅づくり」体験のための準備が行われていました。館内のカフェ「ひこひなもり」では、隣の田んぼで作った古代米を使い、ホットサンド等を販売しています。

黒米（もち米）
緑米（もち米）

人気の赤米・黒米・緑米と、壱岐のお土産をセットにしたお土産等が販売されています。

農薬を使わない古代米・野菜づくりに取組んでいます!

毎年、田植えと稲刈りの時期には地元の子どもたちや地域の人々が手作業で古代米作りを体験しています。

一支國研究会が育てた野菜は、「原の辻ガイダンス」内で販売しています

一支國研究会では、農薬や肥料を使わず、田んぼに合鴨のヒナを放ち、稲の害虫を食べさせ、合鴨が水田を泳ぎ回ることで稲に必要な酸素を与え、合鴨のフンが肥料になるという合理的な「合鴨農法」を用いて、古代米づくりを行っています。ここではもち米の「黒米」「緑米」、うるち米の「赤米」を栽培しています。春と秋には参加者を募り、田植えや刈り入れ体験などが行われ、参加者には古代米料理がふるまわれます。

自然豊かで歴史ある壱岐の島では、これから再生可能エネルギーを積極的に取り入れて、環境アイランドに変貌しようと、現在様々な施策と地域の取組が行われています。これからの壱岐が楽しみです!

長崎県からのお知らせ

九州エコライフポイント節電活動の参加者募集

節電するとお買い物券がもらえる♪

家庭から排出される二酸化炭素を削減するため、節電等に取り組んでいただいた方にポイント券を差し上げる九州エコライフポイントを実施します。ポイント券は県内の取扱店でお買い物券として利用できます。
節電活動の参加者募集は**１０月１日**より開始しますので、奮ってご参加ください！！

ポイント券をもらうには

1. 九州エコライフポイントのホームページ等から参加申込
2. １２～２月まで節電に取り組み、検針票を事務局あて提出する（検針票を貼付する台紙と返信用封筒は事務局から送付されます）
3. ポイント券が事務局から送付される

申込期間/10月1日～11月30日

もらえるポイント

参加者全員に**500ポイント**（1ポイント=1円）
さらに!!　昨年度と比較して電気使用量を削減できたら、ポイントが上乗せされます!
※ポイント券は、イオン･マックスバリュー、セブンイレブン、ローソン等で使えます。
詳しくは九州エコライフポイントのホームページ（http://q-ecolife.com/）をご覧ください

＜お問合せ先＞九州エコライフポイント管理事務局（公益財団法人九州経済調査協会）
〒810-0004　福岡県福岡市中央区渡辺通２丁目１番82号共創館5F　TEL：092-721-4905

毎月第２水曜日は県下一斉ノーマイカーデーです。

県下一斉ノーマイカーデーには徒歩、自転車、公共交通機関の利用などにより、できる範囲でマイカー利用を自粛しましょう。やむを得ず、マイカーを利用する必要がある場合は、乗合せや、エコドライブの実施により、マイカーから排出される CO_2 の削減にご協力お願いします。運動の趣旨に賛同し、下記期間中にできる範囲での取組が可能な方は「ノーマイカーデー運動参加宣言」を未来環境推進課ホームページからダウンロードしていただき、提出をお願いします。

県下一斉ノーマイカー&エコドライブキャンペーン

・１０月１２日～２２日（長崎がんばらんば国体開催期間）
・１１月　１日～　３日（長崎がんばらんば大会開催期間）

県下一斉ノーマイカー&エコドライブウィーク

・１２月１０日～１６日

長崎県地球温暖化防止活動推進員を募集しています!

推進員は県内10地区で活動しています。現在、定員に満たない地区（長崎、佐世保、西彼、県南、県北、対馬）の推進員の追加募集を行っています！応募申込書を、未来環境推進課のホームページからダウンロードまたは、未来環境推進課、最寄りの県立保健所、市町（環境保全担当課）から入手し、必要事項を記入のうえ、持参、郵送、ファクシミリ又はメールによりお申込みください。なお、各地区ごとに定員になり次第募集を締め切ります。募集人数、応募要領等詳しくは未来環境推進課ホームページをご覧ください。

＜お問合せ先＞長崎県未来環境推進課　〒850-8570 長崎市江戸町 2-13
TEL 095-895-2512 FAX 095-895-2566 E メール s09050@pref.nagasaki.lg.jp
ホームページ http://www.pref.nagasaki.jp/section/mirai/